

平成 29 年度 玄海原子力発電所 原子力防災訓練（総合訓練）について

1. 日 時 平成 29 年 12 月 4 日（月）13:30～17:00（予定）

2. 対応場所 九州電力：玄海原子力発電所
本店（原子力施設事態即応センター）
支社（東京支社、佐賀支社 他）
後方支援拠点（佐世保配電技術訓練場）
川内原子力発電所

3. 訓練想定

(1) 事象発生時間帯

○平日勤務時間帯を想定（訓練時間は当日実時間で進行）*時間スキップなし

(2) 訓練対象号機とプラント運転状態

*通報規則施行（平成 29 年 10 月 30 日）EAL を適用

○1号機：廃止措置段階 ○2号機：定期検査中

○3、4号機：定格熱出力一定運転中（モード1）

(3) 事象想定

○原子力災害（複数号機同時発災）

・原子炉の冷却機能が全て喪失し、原子力災害対策特別措置法第15条事象に至る原子力災害等を想定

○その他災害

・火災発生

4. 訓練項目（案）

	発電所	本店	備考
(1) 通報訓練	○	○	TV会議等によるERCとの連携訓練（本店）
(2) 避難誘導訓練	○	—	
(3) 原子力防災要員等の動員訓練	○	○	
(4) モニタリング訓練	○	○	
(5) 緊急時対応訓練	○	—	
(6) 原子力災害医療訓練	—	—	
(7) AM訓練	○	—	
(8) 緊急事態支援組織対応訓練	—	○	
(9) その他訓練			模擬記者会見は、川内訓練（H29.10.3）にて実施済
①後方支援拠点設置・運営訓練 ^{※1}	—	○	
②プレス対応訓練 ^{※2}	—	○	
③住民避難支援対応訓練	—	○	
④オフサイトセンター連携訓練	○	—	
⑤火災対応訓練	○	—	

※1：後方支援拠点（佐世保配電技術訓練場）の設置・運営訓練、本店即応センターとの情報共有訓練を実施する。

※2：ERC広報班にリエゾンを派遣しERC広報班との連携訓練（プレス発表資料等の共有）及び、情報発信ツールを使った外部への情報発信を行うため、HP掲載までの手順確認を実施する。

5. 訓練型式

シナリオ非提示型（ブラインド訓練）

6. 訓練の進行

○発電所コントローラからの条件付与。

○E R S S 訓練模擬パラメータによる事象進展状況の提示。（予定）

- ・発生した事象を判断し、通報連絡要否判断、通報連絡文作成、訓練通報（F A X ・電話）を実施する。
- ・発生した事象の内容に基づき、各拠点における緊急時活動を行う。

7. 訓練目的

(1) 発電所対策本部、本店対策本部及び後方支援拠点等における役割分担を認識し、対策要員が以下の災害対応を実施できることを確認する。

- ・緊急時における事故収束対応
- ・発電所支援対応
- ・関係箇所との情報連絡・連携対応

(2) これまでの訓練から改善を図った事項の有効性確認

(3) 訓練を通じて以下を確認する。（目標）

- ・原子力災害発生時における国・自治体への迅速な情報伝達や他電力との連携内容を認識した対応
 - ▶ E R C への事象進展予測を踏まえた事故収束対策等の情報提供
 - ▶ 国・自治体への迅速な通報連絡対応及び原子力規制委員会等による10条確認会議、15条認定会議を行うための適切な情報発信
 - ▶ 事業者間における相互の情報共有及び発災時のスキル向上に向けた取組み
- ・新E A L 及び新通報様式を使用した適切な通報連絡
- ・E R C リエゾンとE R C との連携内容の確認

8. 評価

○評価者は、発電所内、当社他原子力発電所及び他電力（一部）より配置。

○評価者による評価及び訓練の振り返り等により、改善事項を抽出する。

以上